

Book Preview

富山高校図書館 2024.9



『 方舟を燃やす 』

角田 光代【著】

1967年生まれ、飛馬が育った時代は、みんなノストラダムスの大予言を信じてUFOを待ち、コックリさんに夢中になった昭和のオカルトブーム真っ最中だった。戦後すぐ生まれの不三子は文化的な生活を知らずに育ち、マクロビオティックの食事で子育てをしたのに、娘や息子とうまくいっていない。高度経済成長期の日本に育ち、昭和平成を生きたふたりがコロナ禍の子ども食堂で出会った時、そこに生まれたものは何だったのか。予測不能な世界を生きる私たちに切実な問いを投げかける角田光代の新たな代表作！

『 日本疫病図説 』

畑中 章宏【著】

疱瘡やはしかなど、様々な感染症に見舞われてきた日本。病原体の存在が知られていなかった時代には、感染症はもののけや怨霊、悪鬼など、目に見えない存在によってもたらされるものと信じられていた。そんな中で人々は、神仏や有名な武将、予言獣などのイメージに病除けの願いを託し、上手な対処法を探ってきた。社寺が授ける護符から「疱瘡絵」や「はしか絵」、郷土玩具など民間信仰による素朴なお守りなど。病と闘い、時に共存していくために生み出されたそうした表現を著者は「疫病芸術」と呼び、「私たちの生活がある側面では豊かにもしてきたのではなかったらうか」と語る。そんな「疫病芸術」50点以上を、時代・テーマ別にカラー図版満載のビジュアルで一挙に紹介。



『 あすは起業日! 』

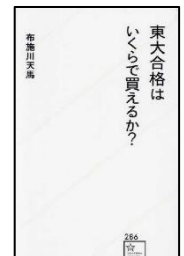
森本 萌乃【著】

人とお金と人生について学べるビジネス小説。コスメ業界で働く加藤スマレは、リモートでゆるく働く毎日どこか物足りなさを感じていた。そんなスマレにあるとき、上司から突然の「クビ」宣告が。絶望するスマレだったが、ハローワークや周囲の人の話を聞くうちに、かつて「起業したい」と感じていたことを思い出す。昔から本が大好きだったスマレ。これはもしかして「好きなことで生きていく」に挑戦できるラストチャンスでは？ 転職先も決まらず背水の陣となったスマレは、意を決して起業家の知り合いを訪ねてみるが……。

『 星海社新書 東大合格はいくらで買えるか? 』

布施川 天馬【著】

「子供の教育にどれくらいのお金を使えば、東大に合格できるのか？」東大生ライターである著者が、東大生100人への独自アンケートをもとに、この問いを徹底的に考えた結論がこの本です。その結果見えてきたのは「1380万円をかけて中学受験からしっかり準備すれば、地頭のよさにかかわらず誰でも50%以上の確率で東大に合格できる」という事実です。本書では、確実に東大合格するための正しい受験プランを提案するとともに、「東大受験を投資として見たときのコストパフォーマンス」「東大に合格した人たちは幸せになっているのか」といった、東大受験のリアルな情報をくまなくお伝えします。



『 都市に侵入する獣たち 』

ピーター・アラゴナ【著】



住宅地の道を横切るクマ、ヒナに子ネコを与えるワシ。かつて人間のために創られた都市は、時代とともに清潔で緑あふれる場所へと成長した。しかし、人間の生活を豊かにした都市のあり方が、思いがけず野生生物が都市で生きていくことを可能にしたのである。都市はもはや人間だけのものではない。彼らを受け入れ、互いを傷つけることなく共存していくためには、過去に学び科学に基づいて考える必要がある。カリフォルニア大学の環境史家が、一匹のボブキャットとの出会いをきっかけに、都市生態系の知られざる歴史を解き明かし共生への道筋を探る全14章。